

病院の理念

1. 医療活動を通じ、健やかなまちづくりに貢献
2. 地域連携の積極推進により、利用者にとって最良の医療を実践
3. つねに病院運営の刷新を図り、「愛され、信頼される病院」を実現

岐北厚生病院 広報誌 2010. 1.1発行

2010 冬号 Vol.43

- 年頭のご挨拶
- 大腿頸部骨折地域連携パス
- インフルエンザに用いられる薬について
- 第15回病院クリスマス会を開催
- 外来診療担当表
- その他

43号目次



JA岐阜厚生連
経営管理委員会会長
上松 忍



JA岐阜厚生連
岐北厚生病院
院長
山本 悟

新年あけましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、穏やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、本会事業に格別のご高配を賜り衷心より厚くお礼申し上げます。

平成22年の年頭にあたり皆様へ一言ご挨拶申し上げます。

昨年4月にメキシコで端を発した新型インフルエンザは、WHO(世界保健機構)により「世界的大流行(パンデミック)」が宣言され、わが国においても感染者が増加の一途を辿り行政機関並びに医療機関では診療・予防接種等の対応に追われている状況にあります。また、一昨年からの金融危機による景気低迷が続くなか日本経済もいまだ先行きが不透明な状況下にあります。

こうしたなか、昨年の衆議院選挙により「医療崩壊を食い止め国民に質の高い医療サービスを提供する」を掲げた民主党を中心とした新政権が発足し、これまでの政策方針も大きく変化し医療現場では明るい兆しが見え始めると考えられてきましたが、長引く景気低迷を背景とした税収の悪化から行財政を取り巻く環境も一段と厳しさを増し、国の事業仕分け作業においても厳しい評価がなされるなど、平成22年4月の診療報酬改定や医療関連の予算にも少なからず影響するものと想定され、本会の事業運営も引き続き厳しい環境下におかれると考えられます。

このように医療を取り巻く環境が日々刻々と変化していくなか、病院運営はこれら困難な状況に対応していくことが求められます。本会としては安全で良質な医療を提供していくための施設・設備の整備をはじめ医療従事者の確保と資質向上を引き続き行うことにより、地域医療への貢献を推し進め、併せてコンプライアンス態勢等内部統制の強化に努め、皆様に信頼され求められる病院づくりに取り組んでいく所存であります。

最後になりましたが、本年が皆様方にとりまして幸多き年となりますよう心より祈念いたしますとともに、本年におきましても引き続きご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

新年あけましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、お健やかに清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は大変お世話になりました。誠にありがとうございました。本年も倍旧のご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年の年頭にあたり、皆さまにご挨拶申し上げます。

医療を取り巻く環境は相変わらず厳しいものがあります。中でも勤務医不足は容易に改善されず、地域医療や救急医療の崩壊が心配されています。日頃の健康と生命に直接結びつくことなので深刻な問題です。皆さまの健康と生命を守る使命を持つ私どもといたしまして、何よりご迷惑をおかけいたしますことを心を痛め衷心からお詫び申し上げます。

しかし、私どもは厳しい環境の中でも患者さんに最善の医療をご提供できるように努めてまいります。昨年はCT(コンピューター断層撮影装置)を更新いたしました。高速で精細な画像が得られ、患者さんの負担軽減や質の高い診断に役立っています。今年には心臓カテーテル装置を更新する予定です。これは心筋梗塞など心臓の虚血疾患の診断と治療に役立つ装置です。今後も患者の皆さまにとりまして、少しでも安楽で信頼のおける医療機器の導入や技術の向上と真心を込めた診療・看護に努めて参りたいと思います。

昨年は「政権交代」がなされました。医療を取り巻く環境はまだ不透明ですが、この先国民の安全と健康に光明がさしますことを祈ってやみません。

今年も信頼の心を通わせて皆さまの健康な生活をお守りしたいと思っております。ご理解ご支援を賜りますようお願いいたします。

最後になりましたが、本年が皆さま方にとりまして幸多き年となりますよう心から祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

年頭のご挨拶



大腿骨頸部骨折 地域連携パス

リハビリテーション科部長

高見 秀一郎

大腿骨頸部骨折という病名をお聞きになったことがあると思います。主に高齢者が軽微な転倒によって脚の付け根の部分骨折する状態をいいます。

この大腿骨頸部骨折には大きく三つの問題点があるかと思えます。一つ目は発生数が大変に多く、今後も増加すると見込まれていることです。全国では年間十万人を越す発生があり、当院でも年間百件を越す手術を行っています。二つ目は受傷される方の大半が高齢者であることから既存の病気があったり、受傷後に合併症を起こしたりして、治療に長期入院を要することです。三つ目はやはり高齢者であるがゆえに認知症やリハビリ意欲の欠如、全体的な筋力の低下等があり、多くの場合、受傷前の歩行能力にまで回復が困難なこと、が挙げられます。これらにより救急患者を扱う病院（以下、急性期病院）では病床が慢性的に不足し、患者さんの側からすれば、不十分な状態で退院をせかされるといった不満が常にありました。

こういった状況を鑑みて導入されたのが地域連携パスというものです。これは従来の一病院完結型の医療ではなく地域内にある病院・診療所等がこぞって参加し地域全体で患者を見るといった地域完結型の医療を目指すもので、まず救急搬送された患者さんは急性期病院で手術をされ、リハビリは主に回復期病院で行い、最終的にかかりつけ医にもどされるという流れで運営されます。この間患者さんと一緒にいろいろな情報を記載されたパスシートが動くわけです。

では、地域連携パスを用いるとどのようなメリットがあるのでしょうか。第一に急性

期病院入院時から在宅に至るまでの治療予定が患者さんに明示されることにより先行きの不安を軽減できるかと思えます。第二に急性期病院の入院期間には限界があり、不満を持って退院される患者さんもままありませんでしたが、回復期病院がこれを補完できるということがあります。三番目に共通のパスシートが患者さんと一緒に各施設を動きますから情報の共有化が図れ、ひいては診療内容の透明性の向上につながるものと思えます。

その他にいろいろなメリットがあろうかと思えますが、反面、転院は高齢者にとって心理的な不安や混乱、適応障害を起こすこともあり、問題がないわけではありません。

大腿骨頸部骨折地域連携パスは全国的に大きな広がりを見せておりますが、当院でもこの運用を昨年1月1日より開始しております。私自身は長くこれに関わってきましたが、当初は可能な限り多くの症例をパスで運用したいと考えておりました。しかしながら、現在は個々の患者の状態や家庭状況、病院の特性・状況等を鑑みて、多くの選択肢の中の一つと考えて柔軟な運用をしたいと考えております。今後もすべての患者さんに喜んでいただけるような連携パスの運用を行なってゆきたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。



インフルエンザに用いられる薬について

薬剤師

天野 友哉



昨年より新型インフルエンザが猛威を振っています。国立感染症研究所は7月27日から11月15日までの受診者数を約898万人と推定しています。これは国民の約14人に1人がインフルエンザで医療機関を受診したことになります。

インフルエンザウイルスは鼻やのどの粘膜に付着し、細胞の中で増殖し全身へ広がっていきます。感染から症状が出るまでの潜伏期間は平均1～3日です。のどの痛み、咳、鼻汁に加えて、悪寒、急な高熱、筋肉痛や関節痛などといった全身の症状が強いことがインフルエンザの特徴です。下痢や腹痛を伴うこともあります。発熱期間は成人で1～3日ですが、咳・痰や鼻汁などの症状は解熱後も長く続くことがあります。

インフルエンザウイルスの増殖を抑える薬として、吸入薬のリレンザと内服薬のタミフルが主に使用されています。これらは、発症から2日以内に服薬を開始すると発熱期間を1～2日間短縮させると言われています。しかし、解熱後すぐに服薬を中止すると再発する場合がありますので、薬は最後まで使用してください。

抗インフルエンザ薬を服薬した未成年者の異常行動が問題となりましたが、インフルエンザ自体によってこのような症状を示す場合もあるため、今のところ抗インフルエンザ薬と異常行動との因果関係は不明です。インフルエンザと診断された後はタミフル・リレンザ服薬の有無にかかわらず少なくとも2日間は小児・未成年者が1人にならないよう配慮をお願いします。

抗インフルエンザ薬は、内服薬・吸入薬、さらには注射薬など、新薬の開発も進んでいます。これらの新薬により、インフルエンザ治療の選択肢はさらに広がります。今後も治療法の進歩が期待されます。

MERRY XMAS

MERRY XMAS

MERRY XMAS

MERRY XMAS

MERRY XMAS

MERRY XMAS

MERRY XMAS

MERRY XMAS

第15回

..... Merry X'mas

病院クリスマス会を開催

12月15日(火)外来待合ホールにて、クリスマス会が開催されました。今年で15回目となりますが、今回は「サンタからの贈り物」というテーマのもと開催されました。



クリスマスツリーなどで飾られた会場に、多くの患者様にお集まりいただき、ポインセチアで囲まれた舞台では、高富オカリナアンサンブルガチョウのみなさんによるオカリナ演奏、NPO夢街道のみなさんによるハーモニカ演奏、Poco a Poco with 川瀬 寛のみなさんによるギター・ベース・オカリナ演奏、聖マリア女学院ハンドベル部のみなさんによるハンドベルが演奏され、心温まるクリスマス会になりました。次々に演奏される童謡やクリスマスソングなどに患者様がリズムにあわせて体を揺らしたり、一緒に口ずさんでいる姿もみられ、美しい音色を思い思いに楽しんでいる様子でした。

また、入院患者様にサンタクロースに扮した病院職員によりクリスマスプレゼントとしてハンドタオルがひとりひとり手渡され、思わぬ訪問に患者様の顔から微笑みがこぼれていました。



MERRY XMAS

MERRY XMAS

MERRY XMAS

MERRY XMAS

MERRY XMAS

MERRY XMAS

MERRY XMAS

MERRY XMAS

MERRY XMAS